睡眠随伴症

パラソムニア、夢遊病、レム睡眠行動障害

2012 年 7 月

最近、歯ぎしりに関連するレム睡眠行動障害について述べた。このレム睡眠行動障害と同じ睡眠随伴症に分類される夢遊病は少々様子が異なる。レム睡眠行動障害はレム睡眠中の夢によって引き起こされる行動であるため、車の運転とか精緻なことはできない。一方、夢遊病は・・・。「カナダ人のケネス・パークは、１９８７年の５月に妻の実家に向って 25 キロを車で走った。その後、義理の母を殺して義理の父に瀕死の重傷を負わせたが、夢遊病が原因という事で罪を免れた。」レム睡眠行動障害は夢のなかに車が出てきても、その場になければ運転はできないし、ましてや道に沿ってハンドルを動かしたり、赤信号で止まったりすることはできない。しかし、夢遊病は覚醒が不完全で、ノンレム睡眠状態からの部分的な脳の覚醒があり、この一部覚醒した脳が、車の運転を可能にする。脳の一部に覚醒があるから罪に問えるかどうかという判断は司法からの依頼により睡眠学者が行うことになる。その方法は、今号の二面にその権威と呼ばれる井上雄一教授の講演記事があるので参考にして欲しい。
レム睡眠下でも、すなわち夢のなかでも犯し得る単純な傷害事件は、レム睡眠行動障害でも報告されている。中には、抗鬱剤の服用でレム睡眠行動障害類似の異常行動を起こす。抗鬱剤は浅いノンレム睡眠中に眼球運動を起こし、覚醒時や睡眠時に筋肉の痙攣とか異常運動とかを起こすことがあり、もしかしたら、様々な行動異常と関連があるかもしれない。